

2018年1月18日

明治学院大学
大学院委員会
委員長 松原 康雄

2017年度 秋季入学試験における出題ミスについて

このたび、2016年10月1日に実施しました本学大学院 秋季入学試験の「英語」に出題ミスがあることが判明しました。今後、同様の出題ミスを起こさぬよう再発防止に努めます。

記

1. ミスが生じた研究科等 : 心理学研究科 教育発達学専攻 (修士課程)
2. ミスが生じた入試方法区分、試験科目等 : 2017年度 秋季入学試験 (A方式)、英語
※英和・和英辞書使用可、電子辞書使用不可
3. 試験実施年月日 : 2016年10月1日
4. 合格発表日 : 2016年10月4日
5. 募集人員 : 10名 (夏季入試、秋季入試、春季入試を合わせたの募集人員)
6. 当該科目の受験者数 : 3名
7. ミスの内容

英文和訳をする下線部 (4) の後の文で誤植があった。

- ・“learners” とすべきところが “leaners” と印字されていた。
- ・入稿前の原稿確認の段階で [] 印の箇所を削除すべきだったが、削除されずに印字されていた。

※実際の入学試験問題では該当箇所は赤い字や網掛けになっていません。

(4) A typical workshop might include the following agenda items: introductions and an ice-breaker in which participants get to know each other and state their expectations of the session; a short presentation by the workshop leader on the topic; a group activity in which participants apply the concepts to their practice; a reporting back by the small groups and a general discussion of their work; and a summary and integration by the workshop leader. Sometimes, longer sessions repeat this cycle as often as the time allows. This format follows the original notion of “workshop” in which leaners might be introduced to a integration by the workshop leader. Sometimes, longer sessions repeat this cycle as often as the time allows. This format follows the original notion of “workshop” in which leaners might be introduced to a new piece of equipment, have a chance to try it out, and report back to the instructor on their experiences.

8. ミスへの対応

問題文中に出題ミスがあったが、下線部（４）の和訳をする上では影響の無い内容であったため特に対応は取らない。合否判定に変更はない。

9. ミスの発見状況

2017年12月に前年度の過去問題を閲覧した受験生から問合せがあり、その後、出題者に確認した結果、出題ミスであることが判明した。12月22日に臨時の教育発達学専攻会議を開き、同日、文部科学省に電話で報告を行った。

10. ミスの起きた原因

出題の担当者がパソコンで入力して作成したが、原稿確認の段階で誤植を発見できないまま入試問題を入稿してしまった。入学試験当日の試験開始前および試験開始直後も誤植に気が付くことができなかった。

11. チェック体制の見直し

校正では担当者以外に2名以上の者が積極的に関わり誤植等がないか慎重に確認をする。試験当日は試験開始前だけでなく試験開始直後も入試問題の確認を十分に行う。

以上

【問合せ先】

明治学院大学 大学院事務室
電話 03-5421-5180